

地下水利用ヒートポンプを開発 ハウス栽培農家の注目を集める

ENEX株式会社

若き技術者がハウス栽培農家にとって朗報となる新発想のハウス内空調装置を開発。ランニングコスト抑制につながる装置への農家の関心は高く、実機デモを兼ねる自社のハウスには見学者が絶えない。装置製造とボーリングをセットで販売できるのが強み。今後は全国的な展開を目指す。

身近にあったニーズが事業の原点

秋田県の県南地方は、ハウス栽培のしいたけの出荷額が年間25億円にのぼる全国有数の産地。しいたけに限らず、農産物のハウス栽培ではハウス内の温度を保つため暖房を必要とする場合が多いが、昨今の原油高騰のあおりで燃料費の増しが農家の経営を圧迫している。

そんな従来型の暖房装置に代わるものとして地下水熱利用のヒートポンプを自社開発し製造販売しているのが仙北郡美郷町のENEX(エネックス)株式会社だ。

農家の朗報となる装置を自社開発

34歳の細井友亨社長は、井戸を掘るボーリングと空調機を扱う親族経営の会社に勤めていたが、自身で発案開発した農業用ヒートポンプの商品化にめどが立ったとして、将

来の全国展開も見据えて平成22年6月に現在の会社を起業した。開発に要する費用はあきた企業応援ファンドに応募して採択された資金を充てた。

地下水が豊富なことで知られる美郷町の起業として、また、井戸のボーリングを数多く手がけてきた実績をベースにして、細井社長が着目したのは、一般的な空気を熱源とする熱交換システムではなく、地下水を熱源とする新発想の装置だった。

「地下水は通年で15度くらいなので、これを使えば装置に霜がつくこともなく、非常に効率のいい熱交換が出来ます。灯油を燃やす暖房装置と違って一台で暖房にも冷房にも使えるし燃料費もかからないので、導入初期費用は2、3年で回収できると試算しています」(細井社長)

自社の強み武器に全国展開目指す

ENEXでは自社でもしいたけのハウス栽培をしていて、これ自体も事業の一部門に据えているが、同時に、ハウス内にヒートポンプを設置して性能を実証し、視察者へのデモンストレーションの場にも充てている。

年間30台の販売が採算ラインだが、創業から2年半余りで既に93台という上々の販売実績を誇っている。

機械製造自体は他社の追随も不可能ではないが、地下水ボーリング



ENEXでは自社でも菌床しいたけをハウス栽培し、JA経由で東京市場に出荷している。

エネックス ENEX株式会社

〒019-1522 秋田県仙北郡美郷町金沢東根字蛭川11
Tel. 0187-84-1170
Fax. 0187-84-3571
<http://enex-inc.co.jp/>
<http://www.facebook.com/enex.inc>
E-mail info@enex-inc.co.jp



自社のハウス内に設置されたヒートポンプ。実際に稼働して、視察者へのデモンストレーションもしている。(写真上)
システムのほとんどを内製できるノウハウと実績があるのが強みと語る細井友亨社長。(写真中)
ヒートポンプに使った地下水はそのまま消費用にも使える。(写真下)

とセットで販売できるのがENEXの強み。機械にはメンテナンスが伴うので、将来的には全国に営業所を設け、アフターサービスの体制を整えたいという。



高齢農家もタッチパネルで直感的に扱える配慮をしたヒートポンプシステムの自社開発制御盤。